

串間市立都井中学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

学力調査の結果より、以下の3点が課題として挙げられた。

- ・ 問題文で問われている内容を読み取る読解力が十分でない。
- ・ 図や表などの読み取りの問題に弱い。
- ・ 過去に学習した内容を絡めて判断することが十分できない。

これらの課題を分析すると、文章題への取組において、問題文を根気強く読まないままに、早とちりをして、思いつきの答えで解答欄を埋め、それだけで安心して考えると考えられる。さらに、出題者が図や表のどこを見て判断して欲しいのかをよく汲み取っていないとも考えられる。また、單元ごとのテストでは、テスト範囲が狭く、学習内容が過去の単元の既習事項と離れていることは少ないので正答が得やすいものの、実力テストのように、範囲が広い場合、既習事項や経験と絡めて判断することに困難を示す生徒が見られた。

(2) 意識調査結果から見た課題

意識調査の結果より、以下の3点が課題として挙げられた。

- ・ 豊かな基礎体験の面で地域的に触れるものが少なくハンデが大きい。
- ・ 経験や知識が少なく、柔軟な思考ができない。
- ・ 学習の計画や実行などの面で根気強さがない。

これらの課題を分析すると、自然に恵まれた校区内で生活をしているにもかかわらず、休日には、外で遊ぶことはほとんどなく、図書館等の文化的な施設も近隣の場所にはない。また、実体験が少ないので、本やその他の資料から得た知識も、定着しづらく、使いこなせないと考えられる。その他に、対外テスト以外に、学力を比較するには少人数すぎるので、切磋琢磨する態度に欠けるのではないかと考えられる。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

学力向上を意識した経営方針として、①学力向上を果たした生徒のイメージを想定した日々の実践と、②効率の良い教育課程編成の二つを考えた。

①のために、本校では生徒が夢中になり、分かる授業を実現するために、基礎・基本を確実に獲得させる授業づくりを目指すこと、また、生徒の意欲を引き出す学習指導を充実させ、定期的に生徒による授業評価を行い改善に役立てることにした。

それらのために、諸テストの分析に職員全員がかかわり、生徒の全体像をつかんで、弱点補強に努めた。また、研究授業を教科担任全員が行ったり、毎学期ごとの授業アンケートをフィードバックに役立てたりしながら、授業技術の向上に努めた。

②のためには、授業時数の確保を行い、年間授業時数を明確にし、教科の実施率を100%に近づけることと、自習時間をなくすことを目標とした。また、選択教科の選択の幅を広げ、基礎・基本の充実と発展的な学習の両面で生徒の要求に答えられる条件整備を行った。さらに、学校裁量の時間を活用して、学校行事、学校の行事、生徒会活動などを精選して、生み出された余剰時間を教科の時間に割り当てた。

(2) 教育課程内の取組

教育課程内の取組として、①読書活動、②選択教科、③ステップアップの時間、④総合的な

学習の時間、⑤文化発表会、⑥行事について工夫した。

①読書活動では、朝の登校後20分間に、職員も参加して、生徒が前日から用意した本を集中して読ませ、語彙の獲得に役立てている。②選択教科では技能教科にも力を入れ、地域的に触れるものが少ないといったハンデをなくそうとしている。③ステップアップの時間は、国社数理英の基礎・基本の習得とそれ以前に身につけておかなければならない知識等を定着させることが目的である。各教科ごとに、それぞれ朝の読書の時間を利用して一週間の学習期間を与えて自学自習をさせ、その成果をテストで確認し、全員が合格するまで個別指導を行った。④の総合的な学習の時間と⑤の文化発表会では、生徒各自に研究テーマを持たせ、研究と発表を行う機会を与えた。これにより、自分の意見や考えを相手に分かるように伝える表現力と、図や表の読み取りなどの力をつけることに役立てることができた。⑥行事では、生徒全員に持ち回りで作文の発表の機会を与え、文章表現力や、人前で臆することなく自己表現ができる力をつけるように努めた。

(3) 教育課程外の取組

教育課程外の取組として、①早朝セミナー、②宅習の確認、③放課後の質問の時間、④各種検定の参加が挙げられる。

①早朝セミナーでは、3年生を対象に5教科について、1日ごとに入れ替えて25分ずつ、問題集を解かせ、実際の問題を解くための訓練を行った。②宅習の確認では、教科担任が教科ごとの宅習を生徒に提出させ、専門的な立場から宅習ノートの添削を行う方式で行った。学級担任は、教科担任の報告を受け取って宅習提出の状況を知ることになる。③放課後の質問の時間は、強制はしていないが、気軽に話ができるように、なるべく教師が放課後にデスクワークをしながら、生徒の質問を受けやすいような雰囲気作りを行っている。④各種検定では、実用英語検定と漢字検定を定期的に行い、学力の向上を全国レベルと比較して確認できる機会を与えた。生徒の受検率や合格率も満足のいく結果を得ることができている。

(4) 保護者・家庭・地域との連携

小規模校である本校の保護者は全員が評議委員会の役員であり、学校と家庭の密接な連携が可能となっている。

特に学力に関しては、学力向上委員会を設けて、①親子読書の時間、②親子の対話の時間、③宅習の呼びかけと確認といった、活動を行っている。

①親子読書の時間では、夏季、冬季の長期休業の際に、各家庭において、親子で読書の時間を設けて読書活動を進めている。②親子の対話の時間では、新聞記事の内容を生徒が選び、それについて自分の見解をまとめて学級で発表するものである。発表に至るまでに、親の意見を参考にし、自分の意見をノートにまとめている。このときに子どもが何をどう考えているかを親がつかめ、親子での対話の時間も自然に増えていくといった効果が上がっている。

3 成果と課題（今後の取組）

成果：

- ① 5教科平均の合計点が昨年度の353.2点から422.7点へと大きく向上した。
- ② 生徒による授業評価において、授業満足度のポイントが80%以上に至るまでになった。
- ③ 授業中、積極的に挙手や発表をする生徒が多くなった。

課題：

- ① 図や表よりデータを読み取る力や、それを自分の言葉で表現する力を今後もつけなくてはならない。
- ② 問題文の読解力と、問題に対応した解答の仕方を身につけさせる必要がある。
- ③ 特別支援教育を考慮した、全校生徒へのきめ細かな指導の具体的取組を進めていく。
- ④ 義務教育9年間の到達目標と評価基準を設定し、学力向上に関する小中連携を強化する。